



石川県山中温泉の上流の我谷村で江戸初期以来、生活道具として作られた木地盆である「我谷盆（わがたぼん）」は、乾燥すると堅くなる栗板を生木のうちに丸ノミで彫ることで、特徴的な刻み痕を残しています。昭和中期にダム建設で村は水没し一旦途絶えますが、その質実剛健な美しさを木工藝家の黒田辰秋氏が見出し、復興を奨励したことで我谷盆は蘇ったのです。今は様々な解釈で作る木工家が多い中、基本に忠実に取り組む我谷盆の第一人者森口信一さんに展示会をお願いしました。素朴ながら力強さと美しさを湛えた森口さんの我谷盆と共に、5人の盆上を彩る作品を合わせて出品します。我谷盆とその取り合わせをご高覧頂ければ幸いです。 店主

GALLERY
うつわノート

森口信一展 我谷盆と五様の彩り 二〇二二年十一月十九日(土) ～二十七日(日) 森口氏在廊日 十二月十九日・二十日
日溪美佐江・藤田毅・小原ゆかり・柿野茜・橋爪香代 ギャラリーうつわノート 埼玉県川越市小仙波町1-7-6

森口信一 Shinichi Moriguchi

1952年 北海道生まれ
1977年 京都市立芸術大学美術学部彫刻科卒業
1987年 黒田乾吉氏より拭漆の講習を受ける
2000年 我谷盆の研究・制作を始める
2016年 石川県風谷町に「風谷アトリエ」開設
2022年 京都西山アトリエと石川県風谷アトリエで制作



我谷盆 31×15.5cm
貝のシルバースプーン 12.5cm
真鍮薬味さじ 18cm
真鍮オードブルフォーク 20cm

京都の日溪美佐江さんは真鍮やシルバーのカトラリーを作っています。それらは実用と装身具の二面性をもった典麗な細部を纏っています。学生時代は幅広く美術に触れ、社会人になってからニュージーランドに住みながら古物の買付けをした経験もあります。彼女の作るスプーンやフォークの外形的美しさもさることながら、それを通した世界観を描いていることが肝心です。作る技と選ぶ眼、その感性が魅力なのです。

日溪美佐江 Misae Nikkei

1975年 ブラジル生まれ
1996年 嵯峨美術短期大学 美術学科 絵画卒業
2017年 伊丹ジュエリーカレッジ修了
2022年 現在、京都市にて製作



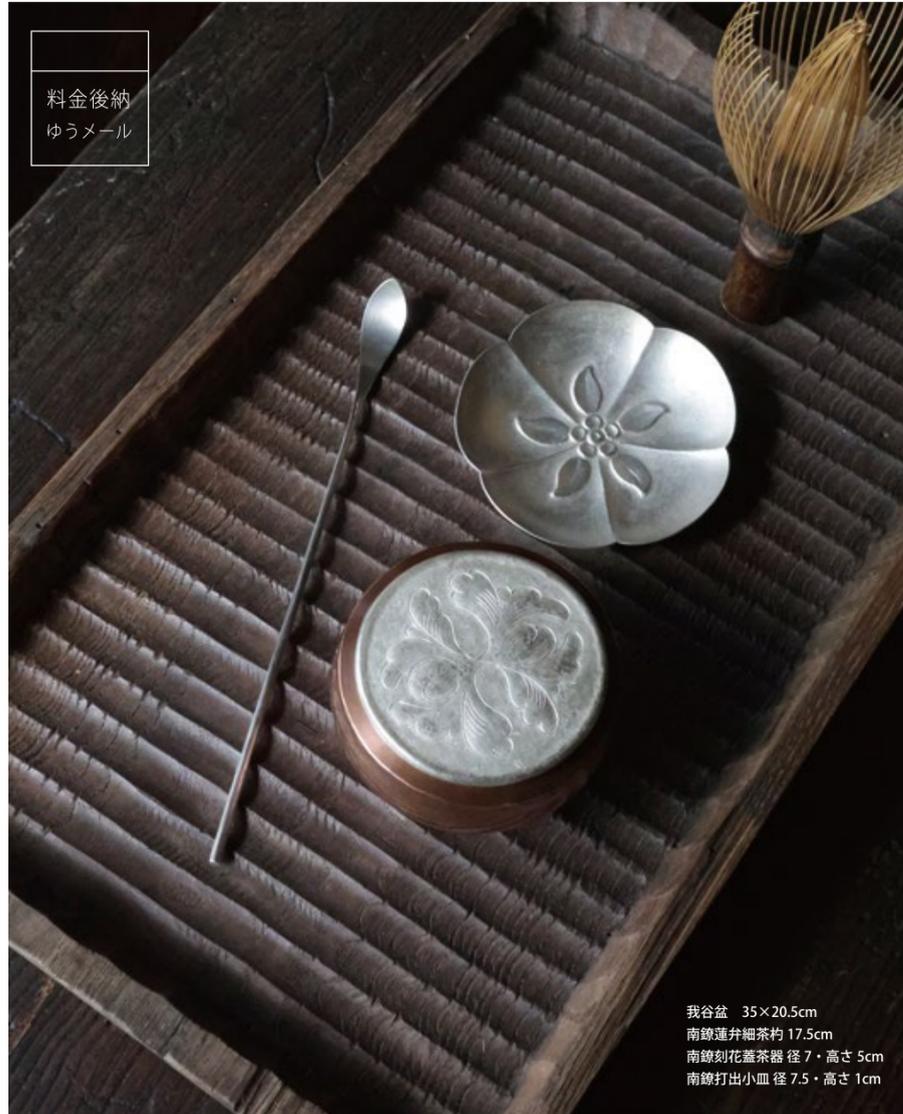
我谷盆 37×22cm
鉄絵彫文片口 径11・高さ8cm
皮鯨酒呑 径6・高さ5cm

仙境の里、広島県神石高原町で穴窯の焼き物に取り組む藤田毅さん。鉄銅メーカー時代は、アルミや鉄の研究職に従事するも48歳で早期退職し、20代の頃から興味があった陶芸の世界に入りました。奥出雲陶芸研究所で学んだ後、2018年に築窯し、唐津、信楽、李朝といった焼き物好きから派生した器を作っています。50代後半にして新人、初々しくも心が穏やかになる作品に出会えることでしょう。

藤田毅 Takeshi Fujita

1965年 茨城県生まれ
1990年 鉄銅メーカー勤務
2014年 奥出雲陶芸研究所入所
2022年 現在、広島県神石高原町にて制作

料金後納
ゆうメール



我谷盆 35×20.5cm
南鐮蓮弁細茶杓 17.5cm
南鐮刻花蓋茶器 径7・高さ5cm
南鐮打出小皿 径7.5・高さ1cm

大阪の小原ゆかりさんは大学の金工研究室を卒業後、鍛金家 田中照一氏に師事、武家茶道に根差す宗和流で茶を学びました。姫宗和とも呼ばれる茶風や道具に惹かれ 優美な作品を作っています。伝統的な鍛金と彫金の技法に裏打ちされた様式と現代性を織り交ぜた茶道具や酒器、装身具を得意とします。今展では南鐮（銀製）の茶杓、茶入、銘々皿などをご覧ください。

小原ゆかり Yukari Ohara

1985年 千葉県生まれ
2010年 東京学芸大学大学院 金属工芸修了
2011年 東京都江戸川区に工房を設立
2018年 大阪府に工房を移転
2022年 現在大阪市東住吉区にて制作

森口信一展 我谷盆と五様の彩り 二〇二三年十二月十九日(土)～二十七日(日) 森口氏在廊日 十二月十九日・二十日
日溪美佐江・藤田毅・小原ゆかり・柿野茜・橋爪香代



我谷盆 24×14cm
蛭袋の茶杯 径5.5・高さ6cm
蛭袋茶托 径9.5cm

現在、金沢卯辰山工芸工房に在籍中の柿野茜さんは、大学でガラス工芸を学び、現在はパート・ド・ヴェールという成型技法で、乳白色のオパールガラスを使った茶杯や茶托、ランプシェードなどを制作しています。光を内包し優しく透かすガラスならではの性質を引き出し、お茶席を魅力的に演出します。まだ20代で今展では最年少の参加となります。

柿野茜 Akane Kakino

1995年 長野県生まれ
2018年 長岡造形大学 美術工芸学科卒業
2020年 東京藝術大学大学院工芸修士課程修了
2020年 金沢卯辰山工芸工房入所
2022年 現在、金沢市にて制作



我谷盆 26×16.5cm
八女白化粧急須 胴径11.5・高さ8cm
八女赤化粧急須 胴径13・高さ7cm

福岡県八女市の橋爪香代さんは、薪窯で急須を始めとする茶器に取り組んでいます。20年前から陶芸に携わっていますが、お茶に関わる焼き物に特化したのは5年前からです。八女茶で知られる一大産地で、煎茶道具へ傾倒するのは自然の流れだったのでしょうか。地元の星野村の原土を焼締めた急須は渋みを吸収しお茶を美味しくします。お茶を育む土で、お茶の道具を作るのは理に合った循環と言えるのです。

橋爪香代 Kayo Hashidume

1971年 福岡県八女市生まれ
1999年 愛知県瀬戸窯業技術専門学校卒業
2002年 福岡県八女市にて築窯
2022年 現在同地にて制作

ギャラリーうつわノート

埼玉県川越市小仙波町1-7-6
TEL 049-298-8715
MAIL utsuwanote@gmail.com



地図はこちら